

トカラ列島平島, 5月 (1990年) の昆虫

福田 晴夫*

Insects of Taira-jima, Toshima-mura, Kagoshima Prefecture,
surveyed in May, 1990

Haruo Hukuda

1990年5月3~4日, トカラ列島 (鹿児島県十島村) 平島の昆虫を調査した。この島は筆者にとっては初めての調査地で, チョウ類を主にした昆虫相やその生息環境を知ることが目的であった。結果としては, 悪天候や時間不足のため十分な成果はあげられなかったが, 予想以上に種類数が少ないこと, いわゆる“普通種”が意外に欠落していることなど, 新しい具体的な課題を発見して, 再調査の必要性を痛感することであった。

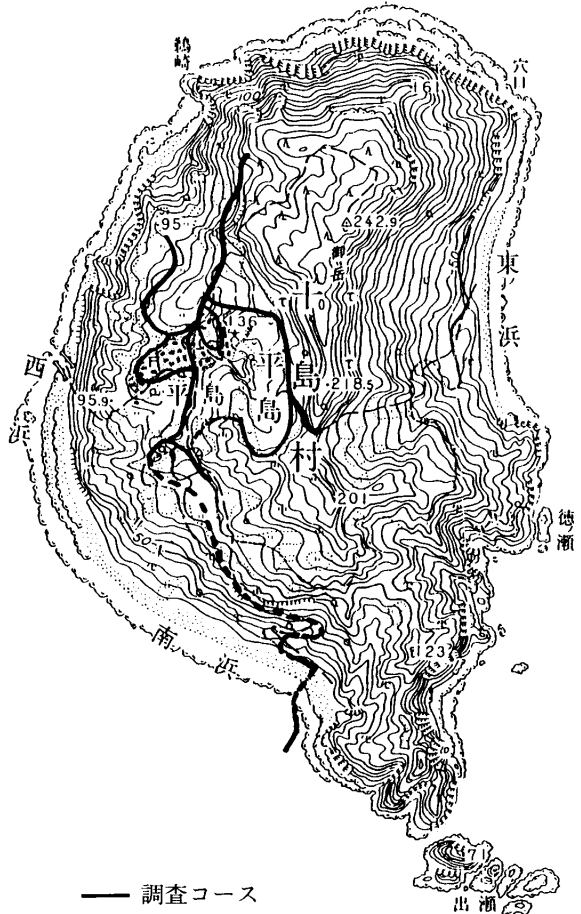
本調査は十島村の依頼によるもので, 村当局には多大の御配慮を賜り, 現地では平島小中学校の川畑利夫校長や山口, 内村両先生に大変お世話になった。ここに改めて厚く御礼申しあげる。

〔日程及びコース〕

1990年5月3日(水) 平島港に上陸 (8:35)
→ 集落の周辺部を調査 (9:50~16:00)。
午前中は曇でうす日のさすまざる天候であったが, 風強く, 午後3時45分から雨となる。夜もさらに激しい雨で, 予定していた灯火採集はできなかった。

5月4日(木) 午前中は雨時々曇, 集落付近や裏山で目につく植物の全種を採集する。博物館に持ち帰って標本作製をしてもらったが, 立久井氏によると80種があり, その中にはオギノツメ, ジャヤナギのような新記録種も含まれていた。草地をスイープしても, ほとんど虫は採れない。林床の倒木を割っても同様である。

平島港から十島丸に乗船 (14:50)。



〔調査地の環境〕

歩いたところは集落を中心に、標高100~200mの範囲で、御岳^{みたけ} (242.9m) の北西側農道、西部の照葉樹林 (水槽付近) に限られた。植生はほとんど全島をリュウキュウチクがおおい、御岳山頂付近にはクロマツが点在、照葉樹林にはガジュマル、タブノキ、ヒロウ、スダジイ (花が少し残る)。水田は予想より少なかったが、水量は多く、早期水稻の苗が植えられた直後であった。畑にはキャベツ、ダイコン (花とさや)、サツマイモ (花あり) が散見され、おおまかには春の草から夏草への移行期であった。路傍にはシバハギ (枯れたさや) があったが、タイワンツバメシジミの食痕は見られなかった。小さな溜池にはデンジソウやツルノゲイトウが生えていた。

〔昆虫の調査記録〕

鱗翅目 (チョウ類) … 6種を確認できたが、いずれも既知種である。

〈セセリチョウ科〉

イチモンジセセリ：水田と小さな溜池のあたりで1♂採集2頭目撃したのみ。このような状況は1984年宝島で5月上旬に調査して得た結果とほぼ同じで、春の個体数は少なく、幼虫の冬季の死亡率はかなり高いものと想像される。似たようなことは県本土でもみられるが、本種が夏から秋にはしばしばおびただしい個体数に達する現象との関連は注目される。ちなみに、個体数変動が似た傾向を示すチャバネセセリ (平島既知種) は、気をつけて探したにもかかわらず1頭も見られなかった。

〈アゲハチョウ科〉

栽培ミカンやカラスザンショウなど食樹はあったが、幼生期も含めて全く見つからず。既知記録としてはナミアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハがある。

〈シロチョウ科〉

キャベツやシロツメクサなどの食草はあるが、全く発見できなかった。既知種はモンシロチョウのみ。それにしても、キチョウがいないのは不思議な気がする。

〈シジミチョウ科〉

ヤマトシジミ：食草のカタバミは多かったが、成虫は2♂採集し、ほかには見ず。

既知種のウラナミシジミ、アマミウラナミシジミは見られなかった。

〈マダラチョウ科〉

アサギマダラ：学校上の樹林で2頭目撃したのみ。幼生期については、海辺に多いというツルモウリンカを調べなかったので何ともいえない。

〈タテハチョウ科〉

アカタテハ：カラムシに中齢幼虫が少数いたのみ。

ヒメアカタテハ：ハハコグサの生えた畑地で2頭目撃、産卵行動を期待してカメラで追ったが、産卵も確認できず、幼虫も見つからなかった。

ツマグロヒョウモン：アツバスマレで終齢幼虫1頭を採集→5月20日1♂羽化。

既知種のタテハモドキ、イシガケチョウは見られなかった。

〈ジャノメチョウ科〉

今回も、また過去にも全く記録がない。

鱗翅類（ガ類）

タケノホソクロバ：1♂1♀ リュウキュウチクで発生したものか，かなり多かった。

直翅類……2種

タイワンクツワムシ：1♀採集

タイワンエンマコオロギ：1♂3♀採集

トンボ類……4種。これまで平島からは1種も記録されていなかった（平嶺，1981）。

コフキヒメイトトンボ：羽化期の初期と思われたが，6♂2♀採集，普通種。

ギンヤンマ（？）：羽化直後らしい1頭を目撃。

シオカラトンボ：少数目撃，1♂採集（羽化直後）。

ウスバキトンボ：1頭目撃したのみ。まだ飛来していないということか？

網翅類……ヒメチャバネゴキブリ：4頭

半翅類……6種。

コセアカアメンボ：1♂2♀（巨大なガジュマルのある樹林近くの小さな溜池で採集した。普通
ヒメアメンボ：1♂（のアメンボはいなかった。2種とも平島新記録（？）。

ヒメホシカメムシ：1頭

ホオズキヘリカメムシ：2頭

キュウシュウクチブトカメムシ：3頭

フタテンメクラカメムシ：1頭

※セミ類については，島の人の話しによると，クマゼミ，ニイニイゼミ（？）しかいないという。

甲虫類……未同種が10種余りある。

ウスアヤカミキリ：1♂。平島からのカミキリムシはこれまで1種も報告されていなかったので，本種が初記録になる。

〔昆虫相についての雑感〕

平島の昆虫は極めて種類数が少なく，トカラのほかの島では普通に見られそうなアオスジアゲハ，キチョウなどが欠落している点で注目される。島の人たちの話では，カブトムシ，クワガタムシもないようだという。これらが単なる調査不足ではないらしいことを，実際に現地を歩いて感じた。見られる種は移動性の強い種や人に運ばれる機会の多い種が主で，昆虫類の侵入と定着の歴史を探るには貴重なフィールドである，共に古期火山帯に属する臥蛇島も含めてトカラの島々の中で，多少は異質な昆虫相を示すものか否か，継続的な調査と確実なデータの集積が必要であろう。郷土の自然を調べる作業を，学校教育の場で展開できれば素晴らしい。